

貯蓄の状況

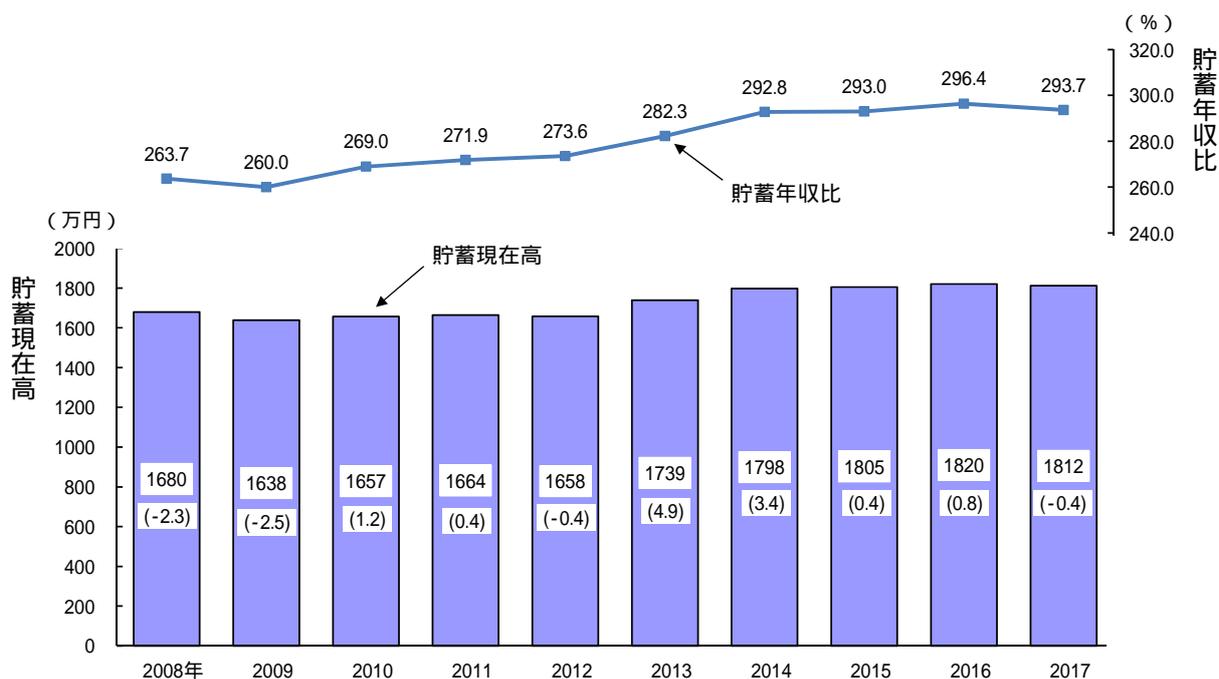
1 概況

(1) 貯蓄現在高は1812万円で5年ぶりの減少

二人以上の世帯における2017年平均の1世帯当たり貯蓄現在高（平均値）は1812万円で、前年に比べ8万円、0.4%の減少となり、5年ぶりの減少となっている。貯蓄保有世帯全体を二分する中央値は1074万円（前年1064万円）となっている。また、年間収入は617万円で、前年に比べ3万円、0.5%の増加となり、貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）は293.7%で、前年に比べ2.7ポイントの低下となっている。

（図I-1-1、表I-1-1）

図I-1-1 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）



注) () 内は、対前年増減率(%)

表I-1-1 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

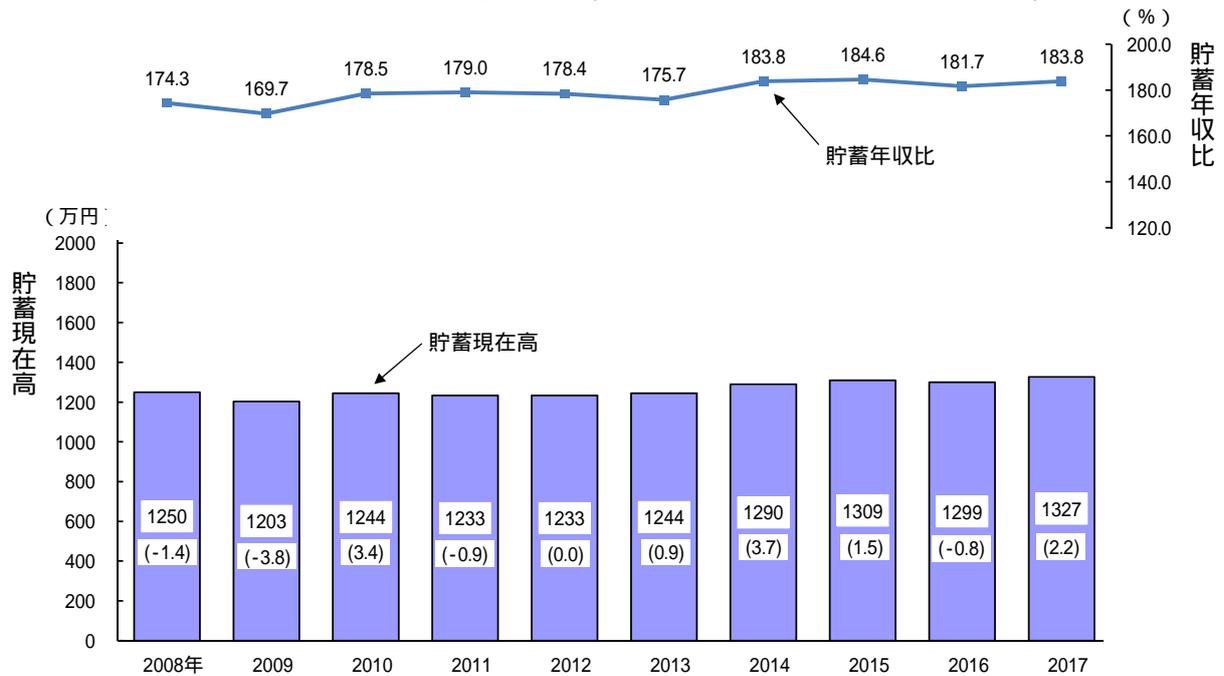
年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (1)/(2) (%)	貯蓄保有世帯の中央値 (万円)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)		
2008年	1680	637	-2.3	-1.8	263.7	995
2009	1638	630	-2.5	-1.1	260.0	988
2010	1657	616	1.2	-2.2	269.0	995
2011	1664	612	0.4	-0.6	271.9	991
2012	1658	606	-0.4	-1.0	273.6	1001
2013	1739	616	4.9	1.7	282.3	1023
2014	1798	614	3.4	-0.3	292.8	1052
2015	1805	616	0.4	0.3	293.0	1054
2016	1820	614	0.8	-0.3	296.4	1064
2017	1812	617	-0.4	0.5	293.7	1074
						(1016)

貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄現在高が「0」の世帯（以下「貯蓄「0」世帯」という。）を除いた世帯を貯蓄現在高の低い方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。
() 内は、2017年の貯蓄「0」世帯を含めた中央値（参考値）。

このうち勤労者世帯（二人以上の世帯に占める割合50.9%）についてみると，貯蓄現在高（平均値）は1327万円で，前年に比べ28万円，2.2%の増加となり，貯蓄保有世帯の中央値は792万円（前年734万円）となっている。二人以上の世帯全体と比べると，平均値，貯蓄保有世帯の中央値共に低くなっている。また，年間収入は722万円で，前年に比べ7万円，1.0%の増加となり，貯蓄年収比は183.8%で，前年に比べ2.1ポイントの上昇となっている。

（図I - 1 - 2，表I - 1 - 2）

図I - 1 - 2 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）



注)()内は，対前年増減率(%)

表I - 1 - 2 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (1)/(2) (%)	貯蓄保有世帯の中央値 (万円)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)		
2008年	1250	717	-1.4	-0.1	174.3	757
2009年	1203	709	-3.8	-1.1	169.7	754
2010年	1244	697	3.4	-1.7	178.5	743
2011年	1233	689	-0.9	-1.1	179.0	729
2012年	1233	691	0.0	0.3	178.4	757
2013年	1244	708	0.9	2.5	175.7	735
2014年	1290	702	3.7	-0.8	183.8	741
2015年	1309	709	1.5	1.0	184.6	761
2016年	1299	715	-0.8	0.8	181.7	734
2017年	1327	722	2.2	1.0	183.8	792 (743)

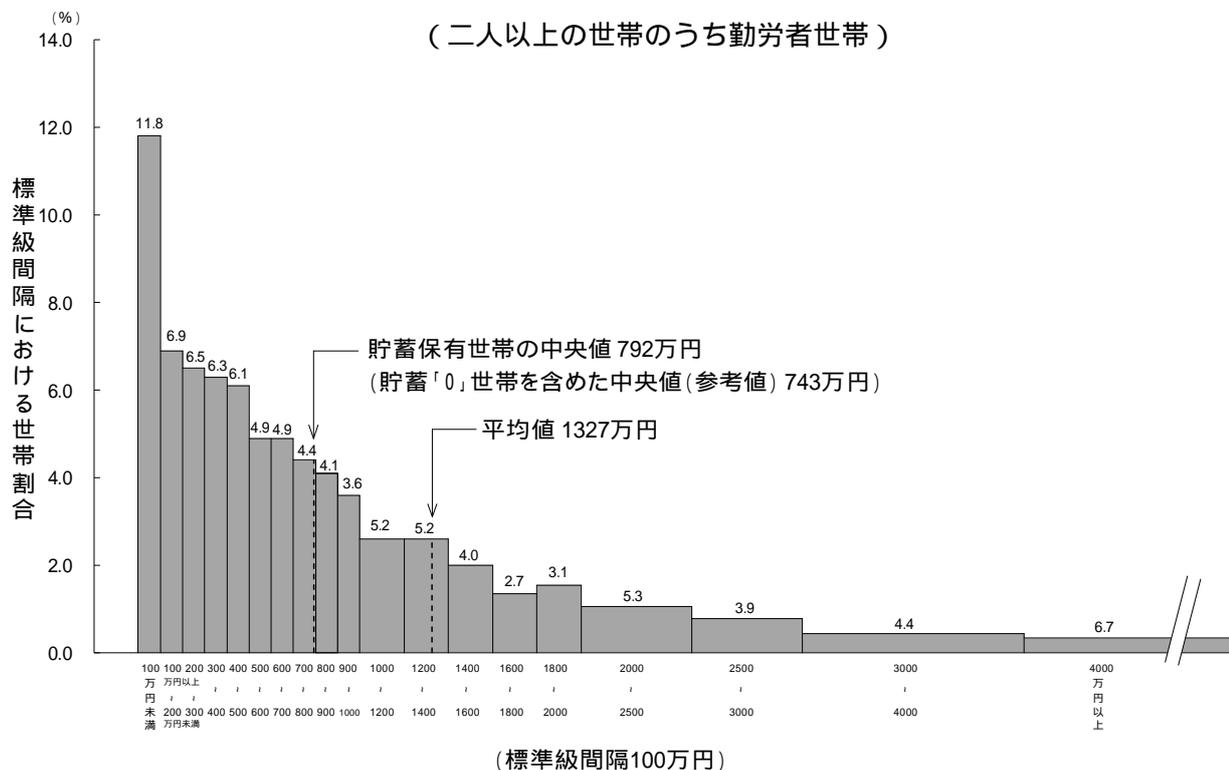
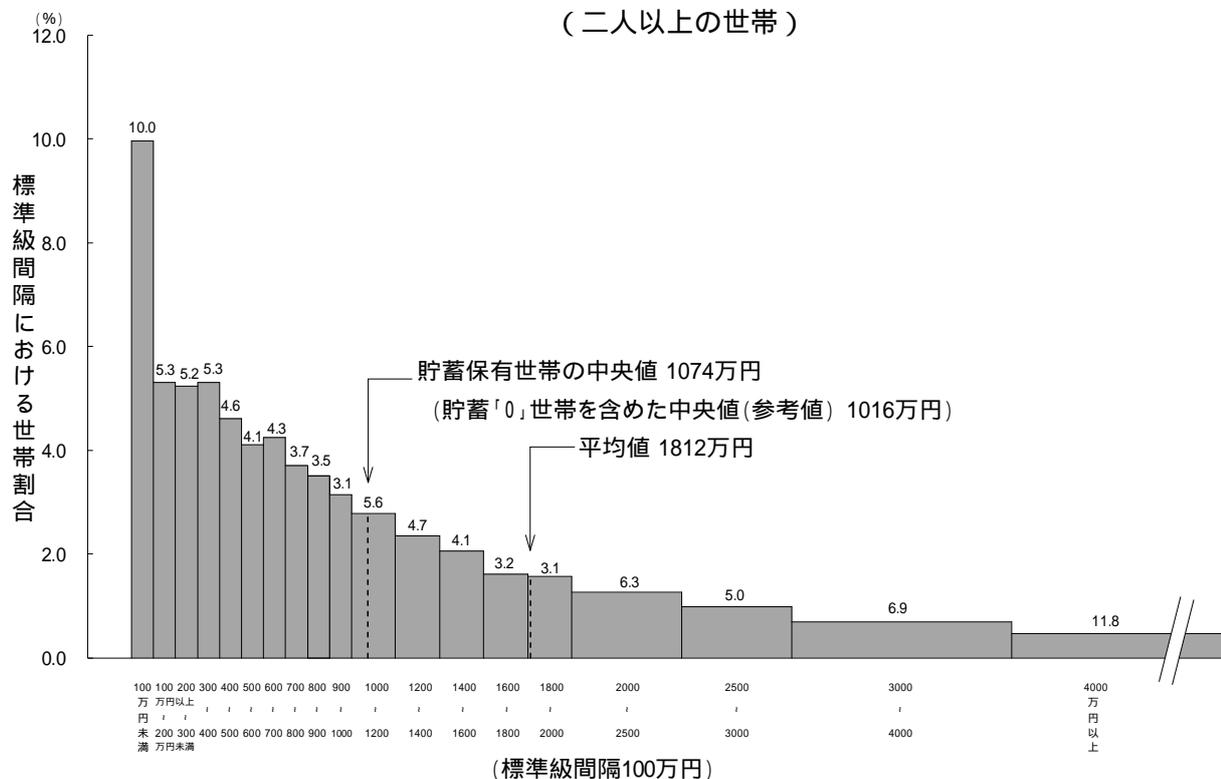
貯蓄保有世帯の中央値とは，貯蓄「0」世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の低い方から順番に並べたときに，ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。()内は，2017年の貯蓄「0」世帯を含めた中央値(参考値)。

(2) 貯蓄現在高が平均値(1812万円)を下回る世帯が約3分の2を占める

二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、貯蓄現在高の平均値(1812万円)を下回る世帯が67.0%(前年67.7%)と約3分の2を占めており、貯蓄現在高の低い階級に偏った分布となっている。

(図I-1-3)

図I-1-3 貯蓄現在高階級別世帯分布 - 2017年 -



注) 標準級間隔100万円(1000万円未満)の各階級の度数は縦軸目盛りと一致するが、1000万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いため、縦軸目盛りとは一致しない。

2 貯蓄の種類別内訳

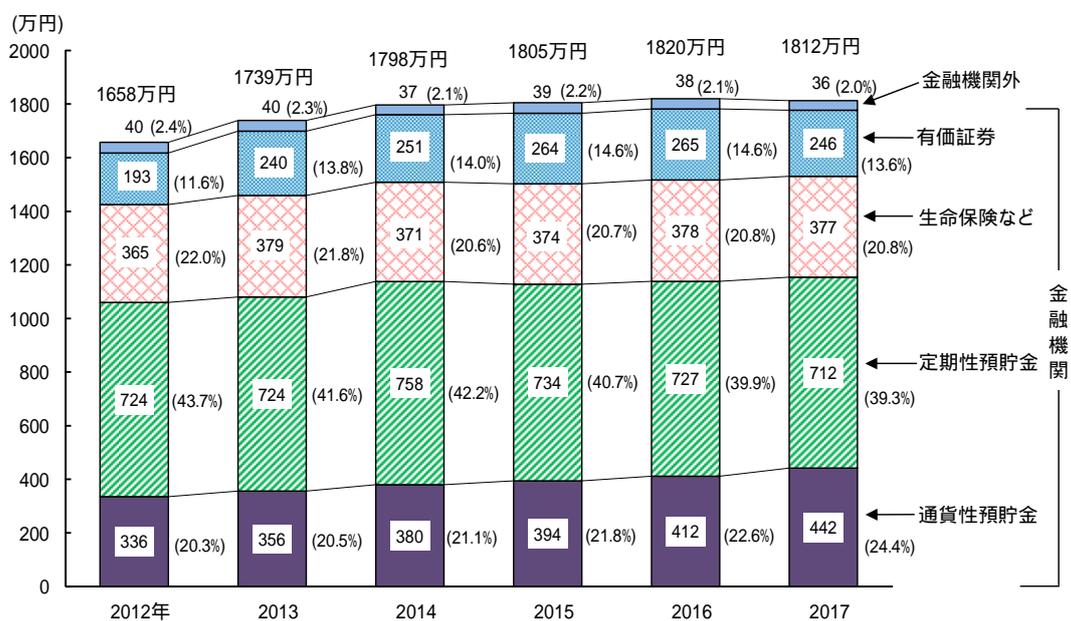
通貨性預貯金は9年連続の増加

二人以上の世帯について貯蓄の種類別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、定期性預貯金が712万円（貯蓄現在高に占める割合39.3%）と最も多く、次いで通貨性預貯金が442万円（同24.4%）、「生命保険など」が377万円（同20.8%）、有価証券が246万円（同13.6%）、金融機関外が36万円（同2.0%）となっている。

2016年と比べると、通貨性預貯金は増加となっている。通貨性預貯金は、前年に比べ30万円、7.3%の増加となり、9年連続の増加となっている。一方で、定期性預貯金は、前年に比べ15万円、2.1%の減少となり、3年連続の減少となっている。

（図I-2-1、表I-2-1）

図I-2-1 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移（二人以上の世帯）



注) ()内は、貯蓄現在高に占める割合

表I-2-1 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

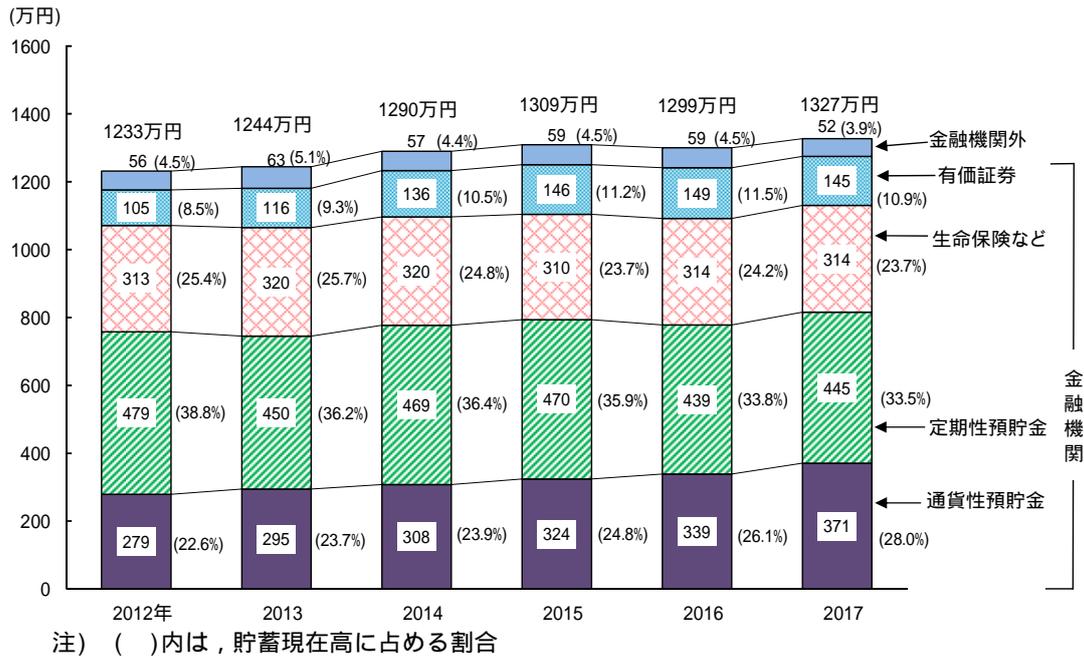
年次	貯蓄現在高	金融機関												金融機関外
		通貨性預貯金	普通銀行等	郵便貯金	定期性預貯金	普通銀行等	郵便貯金	生命保険など	有価証券	株式投資信託	貸付信託	債券・公社債投資信託		
金額 (万円)														
2012年	1658	1618	336	259	77	724	504	221	365	193	126	10	57	40
2013年	1739	1699	356	280	76	724	515	210	379	240	161	12	67	40
2014年	1798	1761	380	301	79	758	540	218	371	251	175	12	64	37
2015年	1805	1765	394	312	82	734	518	215	374	264	192	13	59	39
2016年	1820	1782	412	327	85	727	520	208	378	265	197	17	51	38
2017年	1812	1777	442	353	89	712	506	206	377	246	188	13	45	36
構成比 (%)														
2012年	100.0	97.6	20.3	15.6	4.6	43.7	30.4	13.3	22.0	11.6	7.6	0.6	3.4	2.4
2013年	100.0	97.7	20.5	16.1	4.4	41.6	29.6	12.1	21.8	13.8	9.3	0.7	3.9	2.3
2014年	100.0	97.9	21.1	16.7	4.4	42.2	30.0	12.1	20.6	14.0	9.7	0.7	3.6	2.1
2015年	100.0	97.8	21.8	17.3	4.5	40.7	28.7	11.9	20.7	14.6	10.6	0.7	3.3	2.2
2016年	100.0	97.9	22.6	18.0	4.7	39.9	28.6	11.4	20.8	14.6	10.8	0.9	2.8	2.1
2017年	100.0	98.1	24.4	19.5	4.9	39.3	27.9	11.4	20.8	13.6	10.4	0.7	2.5	2.0
対前年増減率 (%)														
2012年	-0.4	-0.6	6.0	6.1	5.5	1.1	1.2	1.4	-5.4	-7.7	-6.0	-16.7	-9.5	8.1
2013年	4.9	5.0	6.0	8.1	-1.3	0.0	2.2	-5.0	3.8	24.4	27.8	20.0	17.5	0.0
2014年	3.4	3.6	6.7	7.5	3.9	4.7	4.9	3.8	-2.1	4.6	8.7	0.0	-4.5	-7.5
2015年	0.4	0.2	3.7	3.7	3.8	-3.2	-4.1	-1.4	0.8	5.2	9.7	8.3	-7.8	5.4
2016年	0.8	1.0	4.6	4.8	3.7	-1.0	0.4	-3.3	1.1	0.4	2.6	30.8	-13.6	-2.6
2017年	-0.4	-0.3	7.3	8.0	4.7	-2.1	-2.7	-1.0	-0.3	-7.2	-4.6	-23.5	-11.8	-5.3

このうち勤労者世帯についてみると、定期性預貯金が445万円（貯蓄現在高に占める割合33.5%）と最も多く、次いで通貨性預貯金が371万円（同28.0%）、「生命保険など」が314万円（同23.7%）、有価証券が145万円（同10.9%）、金融機関外が52万円（同3.9%）となっている。

2016年と比べると、通貨性預貯金及び定期性預貯金は増加となっている。通貨性預貯金は、前年に比べ32万円、9.4%の増加となり、比較可能な2003年以降増加が続いている。一方で、有価証券は、前年に比べ4万円、2.7%の減少となり、5年ぶりの減少となっている。

（図I-2-2，表I-2-2）

図I-2-2 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）



表I-2-2 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

年次	貯蓄現在高	金融機関										金融機関外		
		通貨性預貯金	普通銀行等	郵便貯金	定期性預貯金	普通銀行等	郵便貯金	生命保険など	有価証券	株式・株式投資信託	貸付信託・金銭信託		債券・公社債投資信託	
金額 (万円)														
2012年	1233	279	216	63	479	329	150	313	105	67	5	33	56	
2013	1244	295	231	64	450	309	141	320	116	80	6	29	63	
2014	1290	308	245	64	469	323	146	320	136	101	6	29	57	
2015	1309	324	257	68	470	324	146	310	146	113	7	26	59	
2016	1299	339	272	67	439	302	137	314	149	115	12	22	59	
2017	1327	371	300	70	445	313	132	314	145	112	9	24	52	
構成比 (%)														
2012年	100.0	22.6	17.5	5.1	38.8	26.7	12.2	25.4	8.5	5.4	0.4	2.7	4.5	
2013	100.0	23.7	18.6	5.1	36.2	24.8	11.3	25.7	9.3	6.4	0.5	2.3	5.1	
2014	100.0	23.9	19.0	5.0	36.4	25.0	11.3	24.8	10.5	7.8	0.5	2.2	4.4	
2015	100.0	24.8	19.6	5.2	35.9	24.8	11.2	23.7	11.2	8.6	0.5	2.0	4.5	
2016	100.0	26.1	20.9	5.2	33.8	23.2	10.5	24.2	11.5	8.9	0.9	1.7	4.5	
2017	100.0	28.0	22.6	5.3	33.5	23.6	9.9	23.7	10.9	8.4	0.7	1.8	3.9	
対前年増減率 (%)														
2012年	0.0	6.1	5.9	6.8	1.3	2.2	-0.7	-4.6	-7.9	-13.0	-28.6	10.0	3.7	
2013	0.9	5.7	6.9	1.6	-6.1	-6.1	-6.0	2.2	10.5	19.4	20.0	-12.1	12.5	
2014	3.7	4.4	6.1	0.0	4.2	4.5	3.5	0.0	17.2	26.3	0.0	0.0	-9.5	
2015	1.5	5.2	4.9	6.3	0.2	0.3	0.0	-3.1	7.4	11.9	16.7	-10.3	3.5	
2016	-0.8	4.6	5.8	-1.5	-6.6	-6.8	-6.2	1.3	2.1	1.8	71.4	-15.4	0.0	
2017	2.2	9.4	10.3	4.5	1.4	3.6	-3.6	0.0	-2.7	-2.6	-25.0	9.1	-11.9	